

六篠会報

第 6 号

発行 神戸市灘区六甲台町一
神戸大学農学部内
六篠会

(神戸大学農学部同窓会)
印刷 日本住所調査センター



創立35周年記念事業

ご協力に感謝

会長 西川 欣一

21世紀に向けて、先端技術の進歩発展のめざましい昨今、人類の食糧と環境問題

を担当する農学部に対して従来の枠以上の期待が寄せられはじめました事はよ

ろばしい限りです。さて、わが六篠会が計画

の除幕式及び創立35周年祝賀会を中心とする記念事業が別掲(参画者名簿)のよう

バイオ時代に翔く



▲ 発祥の地記念碑 (裏面)



▲ 発祥の地記念碑 (正面)

昨年九月、西羅先生の後任として学部長に就任し、一年が夢の様に過ぎました。顧みず、「わが国農業全般の進歩発展に貢献するために農学の学理と応用を研究し、教養高き農学者、農業技術者を養成する」という高邁な理想をかかげ、三宅学長により設立された、兵庫農科大学附属農場助手として勤務して、35年の年月が過ぎようとしています。



六篠会の皆様へ

農学部長 水野 進

大学院自然科学研究科(博士課程)にも参加する農学部にも発展し、昨五十九年三月、農学部の参加分野で、初めての博士(学術博士二名)が誕生いたしました。本年は、農博、学術博含めて五名の博士が誕生しました。ここしばらくは内的な充実と、研究成果の発揮に向っての努力がなされる段階と心得ます。関係各位のご苦勞、ご努力に感謝と敬意を表しつつ、私達一同、責務を感じております。

さて、現在の農学部及びそれを取りまく社会的状況は産業界の需要の増加と、本年の受験傾向でもおわかりの様に、農学に対する社会的要求は、今後増加する

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

社会におけるきびしい道を精進のこと深く敬意を表しますと共に、ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

様に思われます。レスター・ブラウンの指摘しているように、物理・化学を基調とした20世紀の工業発展は、エネルギー危機の到来で、その限界がみえてきて、これからの21世紀は生物学によって導かれる時代であるという認識が、生命科学ないしは生物工学のめざましい発展によって、工業界にいよいよ確たる基盤をもち、重みをますますなってきたということがあるものと思われまふ。云いかえれば、生命科学を取りあつかう農学部に対する社会的増加と、これにともなう要望も積極化するものと考えられる現状です。

こうした社会的背景のもと、数年来、全国の農学部の「見なおし」が要求されてきたわけですが、本年にはいり文部省の農学部改組に対する姿勢は、一段と強まって参っています。その一つが、大学院構想であり、いわゆる本大学に設立された独立大学院方式と、愛媛大学農学部を基幹校として香川・高知農学部を連合する、連合大学院方式とであり、前者には、神戸・新潟・岡山・金沢の各大学が現在参画し、学部の壁をとりぞき、学際的・総合的に研究・教育を進めることを目的としています。一方、連合大学院は、農学部のみの連合によるもので、学問

の総合化・多彩化に於て前者に劣る傾向にある様に思われます。現在、東京農工大を基幹校とする関東、愛媛大を基幹校とする四国、二校があり、更に東北、中部、中国、九州に設立構想が立てられております。本学に於ては、前にも申しました様に、大学院設立四年が経過し、大学院の教育・研究も軌道にのりつつあります。今後は、学部と大学院のつながりを如何にすべきかが大きな課題であり、また早急に検討しなければならぬ問題と考えております。

最近の産業は、情報網の著しい発達により、目ざましく発展しつつあり、農学の包含する内容も、社会的背景も学際的、国際的になり、農学部のこれら変化に対する対応が強く望まれております。神戸大学入学者選抜要項には、「とくに従来の狭い範囲の農業に把られることなく、バイオテクから食生活・環境保全までの幅広い範囲をその対象と考える

に多数の方々からのご賛同を得て、盛會裡に実施できましたことをここに報告し、ご協力賜った各位に厚く御礼申し上げます。昭和59年5月19日、当日は雲ひとつない好天に恵まれ、母校発祥の地、篠山の旧農大跡に参集した現・旧教官の先生方はじめ、同窓生多数の見守る中、我等が青春ここにあり、六篠会」ときざまれた記念碑の除幕が東順三副会長の司会のもとに、西羅寛(前)農学部長と会長の手で行われました。除幕式を終えた参列者は、農大旧農場跡に建設されている篠山総合スポーツセンターの祝賀会場へ移動して、久下平副会長の司会のもとに祝賀会が始められ、先づ学部長、会長の挨拶、つづいて吉村貞彦、清水俊秀両先生の鏡割り、河本正彦(元)学部長の首頭による乾杯、そしてにぎやかな懇親のひとときが過ぎ、最後に浜田秀男先生の万才三唱で幕

祝賀会後、二次会としてクラス会、OB会がそれぞれ開かれ(別掲特集記事)、旧交を温めました。なお、その他記念事業として、「同窓会名簿創立35周年記念号」の発行、「発祥の地記念碑絵はがき」の製作、祝賀会参加者用記念品(立杭焼)の製作も行われました。

次に六篠会活動のうち、全学同窓会の共通クラブである「KUC」について報告とお願いを申し上げます。国鉄三宮駅前、神戸新聞会館8階にできたKUC(神戸大クラブ)もオープン以来、現在までに全学の卒業生約一、〇〇〇余名の多きが入会し、毎日学部の壁を越えて百万弗の夜景を楽しみながら歓談しておりますが、わが六篠会からの入会者が他学部同窓会にくらべて少ないので、ここに改めてご入会をお願い致します。KUCについて説明しま

と共に、世界有数の大貿易港である神戸港を控えた都市型の農学部として食糧輸出入に伴う諸問題の解決や国際協力など、国際的視野をもった技術者の養成も意図している」とし、特長ある本農学部のあり方を考えています。勿論、進む道は決して平坦ではないでしょうが、新しい、幅広い農学部の発展を期し、私達教官一同、責任の重大さを痛感し努力するつもりです。それにつけても、農学部発展の一つの原動力が、約四千名に及ぶ多数の卒業生諸君の社会での活躍におうところ大であることは明らかです。ここに皆様に心からのご挨拶を申し上げ、今後とも何卒よろしくご声援・ご協力をお願い致します。皆様、神戸ご通過の折は是非六甲台学舎をお訪ね下さい。

す、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

社会におけるきびしい道を精進のこと深く敬意を表しますと共に、ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

社会におけるきびしい道を精進のこと深く敬意を表しますと共に、ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

社会におけるきびしい道を精進のこと深く敬意を表しますと共に、ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

と、加入された方はいちように雰囲気も良く、案内は直接KUC(別記)か六篠会幹事までご連絡下さい。最後に、同窓生の皆様、

▲ 吉村、清水両先生による祝賀会鏡割り

土壌学研究室OB会便り

農化44年卒 直原 俊策

農学部創立三十五周年記念事業として、発祥の地記念除幕式および祝賀会が盛大に催された後、土壌学研究室のOB会が丹波荘で開催され、久しぶりに先輩の皆様と顔を合わせ、お話しを交わす機会に恵まれましたことを大へんうれしく、またなつかしく思いました。

ふり返りますと土壌研究室のOB会としては、故佐伯先生(初代教授)の退官と石沢先生(二代教授)の着任の会合(昭和四十四年、東先生の教授就任の会合(同五十二年)以来と記憶しますが、ほんとうに久しぶりの感がせまっています。

新緑農の五月十九日、晴天に恵まれ、出席者は全員で二十二名。

開催に当り、現教授の東先生は、農学部創立二十五周年、三十周年以来の再会と出席者の広範な活躍を喜ばれ、農大生々の青春の地「篠山」で学生生活を送った経験のない神大生がOB会に参加されたことをなによりも喜ばれ、今後とも「六篠会」の名のおくり一層強固な結びつきが実現することを望みますとあいさつ。

一同、田中先輩(一回卒)の音頭により乾盃。神大十五回卒の宮永君から始まり、

農大第一回卒の東先生、田中先輩、および現土壌学研究室の土田先生へと全員が自己紹介、近況報告……。

久しぶりの篠山の地で、昔の学生時代を偲び、恩師の先輩、同級生、後輩の思い出話に花を咲かせ、時間のたつのも忘れるひと時でした。

全員が話に夢中になっていく時、突然能宗先輩が立ち上がり、「本OB会はもつと短周期で、定期的に開催してはどうか」との提案が

「吉村先生を囲む会」に出席して

農化29年卒 正井博之

新緑農の昨年五月十九日、晴天にめぐまれ、我が青春の兵庫農大創立三十五周年の記念行事はなごやかに、楽しい思い出を残して無事に終ることが出来ました。

続いて夕方より、私達の講座である食飼料栄養学教室の有志による「吉村先生を囲む会」が新築された国民宿舎ささやま荘で、楽しく、有意義な一夜を夜ふけまで続けることが出来ました。

三十年ぶりに訪れた篠山の町は、古い家は昔のままでしたが、手入れがよく、すっかりリフレッシュ

シユされた趣きで、私達が世話になった時より、美しく、洗練された良い町に变身しているように感じました。

吉村先生は、京都の御自宅から篠山まで、車を運転されてお越しになられ、帰りには京まで私と大村、野呂君を乗せて下さったのですが、模範的な見事なドライブマナーで、お年を感じさせない若々しい運動神経に感心致しました。若い弟子が老先生に運転をさせるといふチグハグなことをしてしまいました。誠にありがたくもあり、もった

いないような且つ楽しく、思い出深い旅をさせて頂くことが出来ました。

今回の私共の計画は、名武先生以下八名の発起人の賛同を得、篠山で学んだ卒業生七十名余に案内を致しました。総勢二十七名と、当初の予想を上回った参加者となり、企画した一人としてありがたく感謝致しております。

本来なら、神戸大学卒業の下級生の方を含め、全員に案内を出すべきでした



▲ 吉村先生を囲む会

が、準備期間も少なかったため、失礼をしてしまいました。このことを紙面をかりてお詫言致します。

今回のこの集りの一番の収穫は、毎年春に一回、食飼料栄養学卒業生全員に御案内を出し、このような会をもつことが出席者全員で

賛同を得たことです。

本年四月十四日には、橋谷義人氏と山内淳一氏のお骨折で大阪で開かれる予定ともれ賜っておりますので、昨年以上の多数の方々の出席で楽しい会が開かれるものと楽しみに致しております。

中記念祝賀会参加者のオジさん達で賑わっていた。

翌20日は、毎年恒例のゼミ旅行というところで「丹波篠山めぐり」と酒落こんだ。石垣のみの篠山城跡へ登り、遠景を見渡したが、生憎の雲空で残念であった。その後、篠山歴史美術館を訪ねたが、昔の裁判所の法廷が当時の調度品で再現されていた。他の椅子よりも数段高い所にある裁判長の椅子に座って他の椅子の人を見下ろすと、ちょっとした裁判長の雰囲気を感じることができた。その後、篠山の町並を通りぬけ、山間部に車を走らせ立杭焼の窯元へ向った。

もくもくと煙の立ちのぼる窯の前で、窯元の主人から立杭焼の由来、横六式(の

退職された方、昇任転勤された方々等々、数々のニュースを耳にしました。が然し、その場限りの記憶、感傷に留まり、遠い過去の出来事のように直ぐに忘却している昨今の私です。

今回六篠会報編集担当の岸原先生より、元事務系の一職員として原稿提出のご依頼を受けましたが、さて

……、と戸惑った次第、と申しますことは前記のとおり余りにも年月が経過し、記憶喪失が忘却が多くて、……「あの先生」、「あの局長、上司、同僚」と聞かされても、容易に思い出せません(余程の特徴、美点、欠点のある方は例外です)。

このような状態であり、皆様に馴染みのあることがらと考へに考えた上……、移管当時の事務系の方々を対象にして、現況をお知らせし、原稿用紙を埋めさせて頂き、ご容赦を願う次第です。

小生、幸い農大に長年お世話になり、自宅も庭先程に近く、又退職後、県の篠山総合庁舎(元農大の農場跡)に建築されています。内の丹波県民局篠山分室に囁託として末席を与えられてる関係上、ちよいちよい旧知の方がお出でになり、地元在住者として、今後時機を得てニュースをお送りしたく思います。

(昭和六十年二月現在)

退職者(順不同)

山中慶次。小野田慶司。小嶋良。森秀二。吉積舜三。

終りになりましたが、足立隆夫氏(柏原高校事務長)には、既に皆様新聞紙上でご承知と思いますが、この度、兵庫県教育功労賞授賞の栄に浴されました。皆様と共に祝福申し上げる次第です。以上簡単ですが、初めて会報の一端をお借りし、六篠会の益々ご発展と、皆様のご多幸をお祈りしつつ今回は失礼いたします。

全員これを了承。

最後に、「デカンショ節」を高唱し、次回の再会を約束して散会。

後日、遠路東京より本OB会に参加された方などは、もう一度篠山の町に立寄る途中、記念碑「我等が青春ここにあり」を見に行かれたと聞く。

私も、記念碑を見に行き、篠山を去る途中、本日のOB会に参加してほんとうに有意義であったなあ、しかも何かすがすがしい気分がいつぱいでした。

こういう気分にはさせる要因はどこにあるのだろうか、恩師にあるのだろうか、先輩にあるのだろうか、また

同期生にあるのだろうか、学生時代を送った篠山という町にあるのだろうか、いや、恩師、先輩、同期生、後輩、学生時代を送った篠山の地、このすべてがそうさせたのではないだろうかなどと考へながら帰途につきました。

日頃どうしても学生時代の同期生とは親しみやすく交流を持つ機会が多いが、本OB会のように、縦のつながりの中で、先生、先輩、後輩の話が聞けるといふことは非常に意義深いものがあったというのを報告してOB会便りいたします。

昭和四十四年三月三十一日を以て、兵庫農大は神戸大学農学部に移管完了。

翌四月一日付を以て、県職希望者は紙切一枚(辞令)でそれぞれ新しい職場へ転勤を命ぜられました。互に思いを残し東に西に袂をおかちました。その後早くも十六年、全く光陰矢の如しです。この間他界された方、

移管後の事務系職員

の皆さんについて

元農大事務官 太期 勇

日置貞正。荻野正三。市内繁清。和田正。青木菊恵。小島一夫。田村幸夫。久合田清。小嶋俊彦。太期勇。

▼ 県職員として在職者

足立隆夫(柏原高校、三月末退職予定)。岡本邦夫(柏原高校)。堀登(生活文化部青少年局)。畑中涼(柏原農林事務所)。太野垣順子(氷上福祉事務所)。石田栄代(県立柏原病院)。福井亨(北摂整備局新都市部)。

▼ 他界者

永井建雄。中道泰民。

関係者まだまだ沢山おられますが、移管時に限定しましたので承願いたします。

移管完了の翌年より毎年、農大当時学生部長、図書館長をされた方々をお招きして、篠山の地で事務関係職員相集い、思い出の一刻を過ごしております。本年もやがて催される予定ですが、この模様については、後日写真を添えてお知らせしたいと思います。

移管完了の翌年より毎年、農大当時学生部長、図書館長をされた方々をお招きして、篠山の地で事務関係職員相集い、思い出の一刻を過ごしております。本年もやがて催される予定ですが、この模様については、後日写真を添えてお知らせしたいと思います。

関係者まだまだ沢山おられますが、移管時に限定しましたので承願いたします。

35周年記念延喜会・与作会

農化59年卒 細江隆司

5月19日晴天に恵まれた篠山で農学部創立35周年記念式典と祝賀会が盛大に催され、引続いて篠山の老舗「近又楼」において、35周年記念延喜会と与作会が合同で行われた。参加者は約50名であったが、例年3月に行われるこの会が、今年に限って5月になったためか、本来、醸酵生産学研究室新卒業生全員が出席できなかった。その代わり現役専攻生

7名の全員参加といううれしい誤算もあった。

山菜料理に舌鼓を打ち、美酒を酌み交し酔がまわるほどに、それまでは同年配同士のみで談笑していたのが、年の差を越えて老いも若きもワイワイ、ワイワイ……。昔話や先生方の裏話、ためになる話に勿論ワイワイも各各自過ぎのせいで、各カラオケの音程ははずれやら怒鳴つ

ているのやら……。勿論本番の「デカンショ節」では、「教授、教授、いばるな教授……」で始まる替え歌までで、夜も更けていくと、喜悅至極に家路につくもの、次の宴会へでかけるものなど、結局一泊したのは若者ばかり約20名であった。夜の篠山へ何人かといわれるカラオケ街をソクを訪ねたりしたが、街

ぼり窯)の特徴などを説明してもらった。次に、ろろを回して製作に挑戦したのが、出来上っているのは粘土の塊ばかり。主人のやっているのを見ても簡単に思えたが、なかなか大変だといことがわかった。形を作るのが無理ならせめて器のデザインだけでもということになり、各自思い思いの絵や文字をかいて主人に預け、後日焼き上がった作品を送ってもらい、その時の楽しかったことを再度思い出した次第である。

唯の2日間の旅ではあったが、私達の青春の思い出としてきつと印象に残ることだろう。35周年記念事業に関係し、ご盡力いただいた各位に感謝致します。

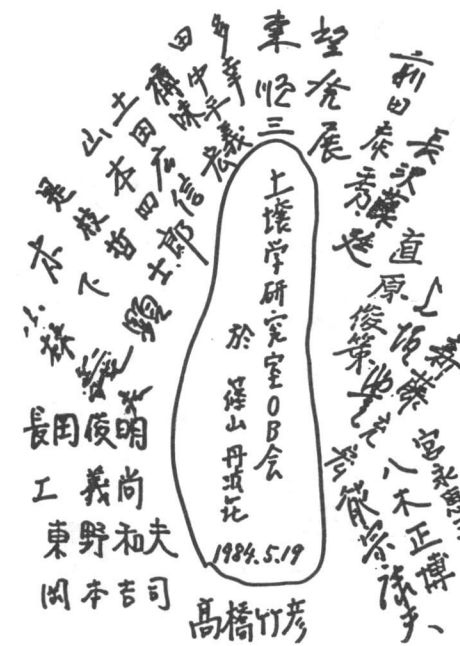
延喜会・与作会

退職者(順不同)

山中慶次。小野田慶司。小嶋良。森秀二。吉積舜三。

延喜会・与作会

延喜会・与作会



▲ 土壌学OB寄せ書き



▲ 旧兵庫農科大学 本部事務室

創立35周年記念事業
参画者御芳名録

創立35周年記念事業参画者の皆さんへ
創立35周年にあたり、六篠会が計画しました各種記念事業に対し、現・旧教育、旧事務官の皆さんをはじめ多数のご賛同を得て、それらを盛大に実施できましたことを報告し、深く感謝申し上げます。ここに「参画者」を掲載し、御芳名を掲載させていただきます。ご芳名に對しては、重く御礼申し上げます。ご芳名を掲載しますが、もし「誤字等」がありましたら、お許し下さい。 (幹事長 新家 龍)

旧 教 官

長谷川儀一・野田 執・竹崎 通善・佐藤 孝
永富 昭・奥谷 禎一・重永 昌二・鈴木 直治
後藤 定年・小林 潤・清水 俊秀・山下 律也
藤井 一夫・石沢 修一・伊沢 悟郎・清水 淳一
吉村 貞彦・金子 秀明・麦林樹太郎・西村雄二郎
井上 良・石橋 武彦・星 和美・小野 豊
近藤健次郎・下田与四雄・久葉 昇・国枝 敏造
花井七郎兵衛・石神 信男・井上善右衛門・斎藤 義一
松下 俊夫・山本 賢治・中村 五郎・久寿米木朝雄
安田 勝幸・三上 雅章・野草 俊作・宮田 澄男
浜田 秀男・堀江 格郎・辻 英夫・長島浩二郎
大嶋 俊彦・松井 宏安

現 教 官

松林 元一・一井 隆夫・澤野 稔・中西 テツ
高山 敏弘・小野 一・畑 武志・尾崎 毅司
居垣 千尋・堀尾 尚志・西村 功・上田 貞夫
岡本 三郎・吉川 三吉・岩崎 照雄・名武 昌人
河本 正彦・西羅 寛・青木 健次・菊田 淳
加藤征四郎・水野 利雄・伊藤 和彦・岡山 高秀
木村 重・清水 晃・上山 泰・秋田 謙司

農 学 科

園 芸 農 学 科

昭和28年卒 久保 知義・坪倉 浩一・西川 欣一
野原 敬吾・小崎 正・前田巳之助・松浦 良彦
宮澤 秀介・三木 正士・村田 照・山口 禎
昭和29年卒 有田 央順・石田 陽博・川崎 泰民
酒木 徹・前川 尚夫・津国 節男・堂本 高明
平山 国治・平吉 功樹
昭和30年卒 石野 拓造・大南 彰・尾松 滝雄
賀美富士雄・木戸三郎・下嶋 悦男・瀧川 憲嗣
垣内 正記・橋本 利太・八田知美・樋口 英武
前川 進・木戸 太三・谷口 勇・松田 一義
三宅 昌・亀島 卓也
昭和31年卒 稻森 次郎・今村幸三郎・井殿 敏雄
岡田 侃一・奥西 弘・萩野 正平・小前 寛治
早栗 毅・中谷 吉実・中島 正清・永井 悟
鍋山 郁夫・古田 昌・藤田 悦久・芦田 圭史
森 俊人
昭和32年卒 豊増千鶴男・石川 克行・稻次 三郎
井上 庄平・植田 保雄・中村 靖弘・新田 邦夫
長谷川市郎・阪上勘右衛門・松井 範義・三方 彰一
村上 和良・村原 稷・森澤 巧・安川 峻男

鷲尾 三郎 秋末 宏幸 石野 尚弘 大塚美智夫
昭和33年卒 大森 明夫 岡村 昌明 加藤 暢重 岸本 基男
北浦 義久 北垣 忠温 米津 紀子 野々口睦巳
宮城 重喜 森口 忠義 石田 薫 武彦 浦岡 睦
昭和34年卒 西章 尾崎 武 北野 成彦 多方 正信
大西 三郎 中沢 啓一 西浦 康二 平川 昌寛
高島 三郎 古橋 慧 石橋 正義 市村 祝夫
昭和35年卒 上田 武志 内山 隆明 大佐田宏良 川上 邦夫
岸田 安弘 木下 勝 黒田 洋司 小稲 茂夫
古河崎正昭 関藤 重一 田淵 義朗 中尾 重保
長沢 弘 野田 真良 藤岡 道 藤木 靖男
前原 良平 森田 尚敏 安井 昌男 前田 義人
昭和36年卒 藤原 足立 隆博 三川 孝明 井上 博明
井上 征男 小田垣博三 川田 孝 金田 成雄
京川 義久 小林 征夫 近藤 博美 酒井 修
杉田 靖典 鈴木素茂 竹中 祥俱 土井 郁夫 修
中尾 義也 永田 健二 長谷部健一 樋口 清一 清
吉川 資也 細見 峻弘 水谷 利治 山内 清脩
昭和37年卒 岸谷 靖雄 古家 正敏 小山 美幸 岡山 光雄
新保 幸範 武 晋 竹内 正義 保田 美治
戸澤 昭夫 藤田 利親 本郷 明義 牧 茂
牧 亨 宮崎 直道 森本 明義 保田 美治
山田 孝義 山本 勝一 和久 克明 菅 茂
昭和38年卒 田中 真夫 栗崎 康徳 小林 豊政 清水 義生
田中 則夫 高見 昭弘 津川 兵衛 中村 喜彦
鈴木 康 樋口 進二 藤田 富夫 戸次浩二郎
畑中 秀紀 室田 高久 猪股 忠久 上田 昭彦
昭和39年卒 岡本 康義 小国 昭信 鎌本 勝博 小林久太郎
坂井 永利 下川 和生 瀬川 政一 谷 俊洋
中田 義富 中野 義彦 廣島 豊彦 藤池 昭之
藤田 豊英 本田 勉 松浦 幸夫 圓尾 哲郎
水田 勲 村上 頭 山下 安博 山本 博昭
横井 政美

西脇 園博 橋本 博允 吉田 明 松尾 信吾
松下 征彦 竹内 順子 山本 義三 家隆 神木 清
昭和44年卒 河合 希直 木村 嘉門 國則 坂上日出雄
阪口 純一 土屋 隆生 原田 洋二 藤田 正子
前田 浩典 三輪 悦夫 森下 正博 岸本 敏三
昭和45年卒 後藤 清 小林 広子 森口 俊 是雄 竹崎 尚雄
松尾 敏 竹崎 広子 勝部 典樹 川口 恵一
昭和46年卒 久斗 光則 児玉 弘文 阪上 芳邦 塩谷 和久
島原 光夫 寺川 博敏 越智 繁男 金月 博司
昭和47年卒 甲斐祐二郎 久保雄之助 白井 美和 谷 博
中村 岩夫 野呂 幸生 早川和佳子
昭和48年卒 中村 岩夫 野呂 幸生 早川和佳子
昭和49年卒 西出 宗晶 古谷 活也 益子 醇三 矢野裕一郎
柴田 好文 仲本 勉 林 哲生 山西 謙爾
昭和50年卒 木村 法彦 三尾修司 山平 富弘 渡邊 猛史
藤元 法彦 三尾修司 山平 富弘 渡邊 猛史
昭和51年卒 大野 高資 藤山 節雄 伊藤 節子 小林 尚
大野 高資 藤山 節雄 伊藤 節子 小林 尚
昭和52年卒 佐野 順一 前田久美子 宗林 正 紀村 尚子
根来 賢二 堀 秀樹 森野 光生 守屋 栄利
昭和53年卒 高谷 信之 竹山 五城 菊地原英子 信岡 尚
藤原 信一 真宮 元正 森田 敏雅 吉川 彰
昭和54年卒 西尾 一彦 多田 晃 江川 宣伸 岡田記代子
佐々木 彰 佐野 武久 高砂 寿夫 葭矢三恵子
武田 達 西岡 久夫 平井 俊治 増井 克至
西尾 正昭 森川 純一 敷 直人 吉田 健一
村本 正昭 入江 大和 大浦 優一 大辻 純一
昭和55年卒 大村 明 片岡 茂里 坪田 直子 中井 正典
野田 善悟 布施 暢俊 蔭野 直幸 森内 和男
野田 善悟 布施 暢俊 蔭野 直幸 森内 和男
昭和56年卒 阪村 基 三本木一夫 高橋 誠剛 中林 一介
中川 善博 足立久美子 松井 裕司 渡辺万里子
包清 博之 中井 京子 佐々木省一 竹尾 朝美
田中 雅久 田和 正美 藤原 啓良 水田 泰徳
森本 毅 矢島 敏男 宇和川明美 和田 正光
昭和57年卒 栗山美恵子 生地 敦子 岩井 正志 上山 泰司
高井 朋子 弾 琴枝 速水 敦子 下村 真悟
寄藤 文明 和田美佐子 柴長 敦子 渡辺 直子
昭和58年卒 片山喜久男 北井 智 潤 井上 岩見 昌典
小松原佐和子 田中耕太郎 田中 康裕 倉田 康治
富士 美子 藤本 欣也 藤本 和雄 宮地 貞治
昭和59年卒 森 利樹 森川 貴夫 安井 孝 渡邊 和男
浅井 祐孝 今井奈津夫 久保田浩三

植 物 防 疫 学 科

昭和43年卒 岡田 忍 小川 和年 井口 剛 宇杉 富雄
佐郷 勝也 岡田 清隆 白石 裕久 長尾 秀之
星野 顕彰 村田 賢二 山川 昇
昭和44年卒 寺西 恒美 野村 克己 山本 和久 山田 重雄
寺西 恒美 野村 克己 山本 和久 山田 重雄
昭和45年卒 西浦 秀一 古市 惠三 星田 幸重
昭和46年卒 松井 良之 岩永 光雄 久保田典太郎 村上 正輝
松井 良之 岩永 光雄 久保田典太郎 村上 正輝
昭和47年卒 安井 久保 佐藤 幸夫 小前 隆美
昭和48年卒 西浦 秀一 古市 惠三 星田 幸重
昭和49年卒 寺西 恒美 野村 克己 山本 和久 山田 重雄

農 業 生 産 工 学 科

農 業 工 学 科

昭和43年卒 岩本 陸生 白井 敏 大垣 秀和 奥田 博司
一見 光男 菊池 秀城 沢村維知郎 中川 清
中谷 健治 羽野 明範 松下 親之 宮郷 博明
昭和44年卒 菊田 旭宏 木村 逸郎 鈴木 道夫 陶山 武司
谷口 啓 寺本 努 鳥山 孝昌 中島 周治
村田 幸裕 湯浅 哲昌
昭和45年卒 中島 莞爾 西田 賢造 岡 淳治 木嶋 素明
中島 莞爾 西田 賢造 岡 淳治 木嶋 素明
昭和46年卒 松村 良之 岩永 光雄 久保田典太郎 村上 正輝
松村 良之 岩永 光雄 久保田典太郎 村上 正輝
昭和47年卒 安井 久保 佐藤 幸夫 小前 隆美
昭和48年卒 西浦 秀一 古市 惠三 星田 幸重
昭和49年卒 寺西 恒美 野村 克己 山本 和久 山田 重雄

農 芸 化 学 科

昭和28年卒 小林 一盛 坂本 主佑 田中 平義 野々口善隆
山本 治 横田 耕一 和田 茂徳 河南 恒
昭和29年卒 貴田 正敏 久保 一兵 酒井 清男 真銅 恒一
中川 敏 能宗 康夫 信西 清人 福田 喜一
古川 淳 正井 博司 山内 治雄
昭和30年卒 田畑 増生 西垣 俣夫 橋谷 義人 古河 信夫
村本 卓夫 児島 初男 橋谷 義人 古河 信夫
山本 四郎 安達 忠良 相川 治昭 片岡 弘男
昭和31年卒 片瀬 正之 岸本 功 喜多河四郎 黒田 隆雄
久下 誠彦 小林 明 阪本 正子 佐伯 敬道
谷口 幸隆 谷口 耕三 谷田嘉久男 玉川 祐光
土井 久司 船木 宗昌 長澤 繁 幣 洋明
松岡 洋治 大倉美佐子 井関 徹三 奥田 幸康
昭和32年卒 谷垣 悟 木村 康一 清原 利文 小山 慎彦
近藤 奎吾 酒井 一幸 阪本 多門 桜井 宏一
新家 龍 中原 次郎 千葉 泰弘 波部喜代志
安尾 康夫 藤井 聡 堀江 正治 松原 正明
昭和33年卒 小林 義夫 桜井 勝夫 渡谷 直唯 谷口 正昭
小林 義夫 桜井 勝夫 渡谷 直唯 谷口 正昭
昭和34年卒 吉田 泰男 吉田 善彦 安福 弘明 三浦 樹紀
吉田 泰男 吉田 善彦 安福 弘明 三浦 樹紀

岸本 章・北山 範夫・吉瀬 徹也・小倉 宏 小林 俊彦・酒井 進・田附 康彦・樽味 昌彦 山本 正也・富士大高司・前川 洋一・前田 昌彦 昭和35年卒 和泉 孔庸・金関 惠・鎌谷 經 高谷 和男・古西 義正・小林 一郎・阪上 隆則 西川 元介・林 宏昌・藤本 孝順・前田 泰秀 昭和36年卒 石橋 次男・入江 義人・岩見止才夫 喜多八洲男・小山 博之・坂本 信人・岸本 芳郎 鈴木 清一・鈴木 博之・坂本 信人・岸本 芳郎 野田 源一・土田 博之・坂本 信人・岸本 芳郎 畑 英雄・細見 博之・坂本 信人・岸本 芳郎 山田 隆三・細見 博之・坂本 信人・岸本 芳郎 昭和37年卒 稲田 和之・井上 治彦・岩井 剛 大杉 匡弘・岡松 修身・小野 豊三・鍵本 正之 岸原 士郎・柴田 征一・田村 元義・辻 洋一郎 出口 厚生・中田 昌伸・長岡 俊明・西浦 隆司 波多野敬二・福井 仲宏・藤田 儀信・前川 季義 松下 昌弘・安川 章・山本 隆司 昭和38年卒 足立 収生・生島 絃一・伊藤 清 江田 扶介・大村 哲夫・小原 真也・金関 良子 神部 昌彦・木村宇一・衣笠 誠吾・田中 正一 坪内 宏・西村 信行・榎谷 滋・三宅 成一 三木 健・森 友彦・森 博章・山内 惇一 山根 敏英・山本 建志・吉田 英毅 昭和39年卒 青山 英紀・網代 真也・池田 裕彦 上村 啓・江上富士雄・王子 善清・角田 洋 木村 一彦・賀川 知彦・清水 希彦・新藤 充宏 高井 崇博・辻 啓介・湯川 勲・東野 和夫 本郷 主税・森鼻 久・伊藤 武男・米田 耕作 昭和40年卒 森田 賢一・大谷 良逸・岡本 順博 宇仁 龍彦・大江 武・阪本 薫・嶋澤 正彦 岡本 吉司・金井 寛・阪本 薫・嶋澤 正彦 下坂 宏・高橋 竹彦・高橋 弘剛・武本 好秀 田部 嗣郎・谷口 寛治・民田 義弘・中村 好秀 西沢 英章・松浦 捷二 昭和41年卒 池田 雅充・岡本 晃・上月 延介 横田 真人・新納 功一・高木 楨夫・高見 知之 田中 正之・谷口 良平・団野 定次・中島 正行 中西 敬夫・畑中弥寿彦・肥田 修二・藤原 武治 山口 芳和・矢野 泰臣・渡辺 正弘 昭和42年卒 石下 雄造・太田 守彦・大野 博行 岡本 靖弘・徳田 紘一・加藤 進弘・榎部 孝二 久保 繁幸・多志満弘夫・田中 靖夫・寺岡 彰夫 西川 勝美・服藤 峻・藤原 昌・洲上 彰夫 森本 克己・吉川 年彦・吉田 公夫・脇内 成明 昭和43年卒 秋末 力・上垣 恵治・石橋 宏 井上 哲哉・今井 徹・上垣 恵治・石橋 宏 宇杉 正昭・岡根谷幸次・片山 誠・勝矢 泰夫 加納 健三・副田眞佐雄・竹川 龍・中村 親 長手 尊俊・西海 秀作・長谷川信弘・花本 秀生 真継 博・松村 正信・山本 和博・吉倉惇一郎 昭和44年卒 浅野 正志・嵐 一夫・有本 敏之 神田 豊・北原 修・木輪 亜夫・直原 俊策 高木 弘之・谷 哲哉・長沢 藤延・秋中 慶治 平野 克彦・藤田 正邦・松田 修幸・山北 太郎 山本 義明・山本 隆三・吉本 一之・葭山 裕子

谷口 正浩 昭和45年卒 江口 清和・北岡 裕隆・記村 公雄 志水 伸一・田中 新次・米谷 守・林部 増英 藤田 剛・丸山 鐸郎・今中 道夫・鈴木 貴博 昭和46年卒 池田 義次・岡根 正充・川崎 耕治 大西 重樹・神吉 秀起・小出 信晴 高木 良雄・高田 稔保・漏留 信晴 昭和47年卒 飯島 義次・岡根 正充・川崎 耕治 武 正興・田面 輝雄・津村 和雄・寺川 文雄 中野 誠・中村 俊博・西村 英喜・林 信平 昭和48年卒 生本 武・牛若 純一・小笹 充夫 阪下 喜治・立花 茂雄・松岡 博史・増田 昇 宮秋 徹・吉野 栄一・吉野 英世 昭和49年卒 天野 史郎・有山 陽子・安藤 恒広 宇野 秀敏・国見 祐治・幸田 昇・浄慶 耕造 西垣 勉・石川 豊子・藤本 敏子・田崎 澄子 堀 隆夫・津久井和代・山形 裕士・山口 英樹 吉川 誠・和田 治郎・大西 壮司 昭和50年卒 杉山 龍司・伊藤 渡・岩元 俊 植田 三郎・垣内 利仁・佐久間孝孝・澤田 純一 小路 正博・杉本 敏男・菊谷 潤子・内藤 雅嗣 中村 洋輔・南森 隆司・森田 幸一・吉羽 雅一 昭和51年卒 浅田 博・安藤 隆夫・江口 宏一 坂本佳史恵・工 義尚・田中 元三・丹波 博之 寺井 慎・前田 利和・溝根 章・横山 幹雄 昭和52年卒 青木 隆明・志賀 純子・市川 茂雄 太田 敏幸・塩野入 勉・柴田 大輔・祖田 哲三 坂本 敏幸・塩野入 勉・柴田 大輔・祖田 哲三 玉田 邦彦・長尾 隆彦・中田 和博・西田 光孝 宮本 良平・石井 芳則・梶原 耕一・坂口 昇 昭和53年卒 外山 誠司・木全美栄子・高倉由美子 阪部 忠雄・野口 幸二・東野 隆一・松岡 陽一 西村 公雄・野田 小夜子・森中 啓三・山本 浩 松永 祐士・野田 小夜子・森中 啓三・山本 浩 昭和54年卒 大滝 裕・加藤 正彦・辻 真二 永峰 一弘・成島 則之・福田 英一・間嶋 正保 松本 喜裕・村上 一恵・大和 公・荒木 朋洋 昭和55年卒 小川 博儀・冠野 禎男・木瀬 陸生 北山 静夫・坂本 宏司・柴田 尚子・中江 孝 長岡 昭夫・長田 貞男・長屋 敦・平岡 睦生 丸山 隆三・三木 豊・三岡 伸吉・村岡 浩一 山口 高秀・猪熊 英治・植田実木生・大塚耕太郎 昭和56年卒 釜田 和彦・植田 成治・笹井 素子 角野 全功・釜田 和彦・植田 成治・笹井 素子 三野 徹・関 智之・善田 裕文・田口 裕亮 立花 本義・谷本 早人・西岡 信一・野村 啓一 野村 秀一・二木 古道・博司 正・八木 正博 柳田 重美・山田 恭裕・山中 博司・渡辺 力之 島 久治 昭和57年卒 蟻岡 義隆・池田 順一・池田 達哉 市村 司・岩田 卓・小竹 美子・高橋 淳 瀧華佐和子・竹内 昭子・辻 美幸・永井 康雄 仲田摩耶子・中山 誠治・田中 智子・野上 義喜 村尾 繁・森田 恵・柳原 孝次・山本由紀子 吉永 和彦・両馬 良樹・和子 義和・上田 太郎 昭和58年卒 井手 秀司・岩佐 義和・上田 太郎 大勝 昌子・岡本 昌彦・河波 朗・久野 智弘 佐藤 正敏・瀬川 彰浩・津田 茂伸・中島 祐子 長森 陽一・長谷川雅一・林 みゆき・船木 美幸 三上 敦人・矢野 誠・吉田 正澄

昭和59年卒 上野 幸生・宮永 惠三・山野 佳則 渡辺 雅雄 昭和61年卒 松本 修治 伊藤 修・中西 博信 昭和30年卒 金藤 祐輔・川越 幸雄・下岡 文一 昭和31年卒 完・都築 良武・仲井 啓郎・西上 純弥 竹下 完・都築 良武・仲井 啓郎・西上 純弥 藤中 勤・和田 善博 昭和32年卒 今村金二郎・小山 佚怡・杉本 金五 中島 英夫・水船 宏・三原 英和・藪中 治郎 池上 良一 昭和33年卒 太田 司郎・佐谷 稔・中村 秀昭 水上 雄三・間野 文爾 昭和34年卒 高田 彰宏・出口 公長・上垣 春雄 永原 茂夫・横林 哲也・米村 健 昭和35年卒 泉 潤・井上 昭朗・高見 吉一 岡本 圭司・小林 健治 松尾 佳彦・水澤 健治 昭和36年卒 稻岡 重幸・運天 朝正・太田 章 大森 祥男・前川 浩治・前坂 正・武田 和雄 多田三喜男・村尾 久隆・米山 惠 三木 啓造・村尾 久隆・米山 惠 昭和37年卒 木村 壽彦・坂野 惠造・櫻井誠次郎 住田 昭男・高橋 忠生・塚元 晴彦・中井 勉 中村 康・仁藤 憲征・東元 治也・藤井 明雄 別府 昭彦・松浦 祥二 昭和38年卒 岡澤 秀晃・河南 保幸・北川 勲 黒田 正明・酒井 清一・清水 克彦・中浜 光生 逸見 真二・松木 晴義・渡辺 大 昭和39年卒 石原 矩武・大西 正登・小田垣昭治 角倉 来・谷口 明浩・辻 莊一・常深 邦晃 藤川 孝行・三徳四十四・山本 茂 昭和40年卒 岡 正路・生永 治彦・小山 一義 下岡 一則・杉本 龍秀・多田 俊明・大原 主司 萩本 邦彦・番匠 宏行・室山 大喜・盛谷 浩 柳 正城 昭和41年卒 井上 勝博・澁谷 徹・清水 洋一 隅田 啓介・富田 隆三・西村 義孝・戸来 正博 松井 克也・三木 卓・山内 隆司・山本 昌弘 和田 彰文 昭和42年卒 井口 元夫・岡村 啓司・神戸 陽 坂井田智治・外林 諭吉・友金 弘・信岡 正登 山西 宏明・吉田 稔治・和田 信行・堀毛 善明 昭和43年卒 岩谷 堯・植木 正雄・越智 昭博 桑原 佑司・谷口 岩谷 正夫・西尾 司・鷹尾耿之介 細見 充史・宮澤 郁夫・村上 達二・岩佐 貞夫 昭和44年卒 芦田 一郎・笹尾 民夫・杉本 善美 大槻庄右衛門・坂戸 一郎・笹尾 民夫・杉本 善美 千浦 佑二・中西 三生・中道 忠宏・本城 武久 三浦 佑二・中西 三生・中道 忠宏・本城 武久 昭和45年卒 稻継 嘉和・木股 昌行・知見 憲次 豊久 恒夫・中村 直彦・藤田 宗幸 昭和46年卒 大久保真裕・武田 義明・立花 孝二 成川 博・平山 義人・福田 英憲 昭和47年卒 井下 祥子・武藤 洋子・鶴見 俊郎 村上 正樹・杉上 光男 昭和48年卒 和良 石井 恒二・北川 敏一 曾根 利治・竹安 邦夫・津留 親夫・向井 文雄 吉本 泰三・湯本 章人・吉田 晃 赤崎 晴久・梶井 香樹・北井 和久

昭和28年卒 足立 祐幸・石坂 十字・井上 皎 今井 孝・今田 淳彦・金井 正夫・岸本 哲夫 切實武代司・兒玉 勝義・小林 勝・小山 吉二 野口 利宏・柴田 一郎・島田 勤・都留 正茂 時安 秀延・中尾 脩・長尾 嘉彦・中谷 正実 西河 清・西口 一成・清水民五郎・早川 勝 福澤 一郎・藤本 良一・長谷川 稔・松田 幸三 松本 實・宮宅 安雄・邑橋 和夫・賀川 幸三 草川 貞良・幸長 勝美 昭和29年卒 安達 幹夫・荒木 修・岸本 光司 島田 達男・坂口 和夫・高島 暢宏・西岡 弘之 西山 敏和・松下 房雄・松原 敏夫・宗平 長城 山本 勇雄・横田 幸治・米沢 政一・兼古 桂 大谷 領一・大野 忠治・紙漉 貞徳・兼古 敏 横谷 幹・塩崎真一郎・佃 貞徳・兼古 敏 中尾 裕之・長谷川 進・林田 幹夫・広田 豊 河原 絹男・前川 重夫・三好 旭・山中 芳郎 山村 貞平 昭和30年卒 弘・篠原 正登・諏訪 義昭 高橋 勝洋・山形 庸・金森 教信・中戸 健 山口 菊雄・岩本 治・岡本 保正・高馬 繁一 塩谷 亮一・田村 大・柘植 利正・中谷 宏 八木 和一・屋本邦夫 石田 安夫・内橋 康二・大田 清重

畜産学

大学院・農学研究科

兵庫医大・医進課程

協賛広告・協力会社

三晶(株)・杉本食品(株)・浅野工業(株)・弘栄貿易(株)
 (株)中野酒造(株)・小西酒造(株)・沢の鶴(株)・西宮酒造(株)
 菊正宗酒造(株)・本野田酒造(株)・伊藤ハム栄養食品(株)
 キューピー(株)・関西高等学院・日本グラウト工業(株)
 寿環境機材(株)・佐藤薬理商会・日本チパウイギー(株)
 住友化学工業(株)・堀井薬品工業(株)・三和農芸施設(株)
 台糖フーズ(株)・小野薬品工業(株)・三和農芸施設(株)
 (株)神崎高級工業製作所・前田産業(株)・兵庫県経済連
 灘神戸生協・月と6ペンス・日本住所調査センター
 枝研発泡工業(株)・芝茂造園建設(株)・ホームエイゼン
 丸永(株)・小田垣商店・辰己緑営(順不同)

その他

萩野 正三・森 秀二・小嶋 良・太期 勇
 福井 亨・北村 幸一・山田 兵吉・山田まきの
 俣野 稔・畑中 諒・中山 利郎・小島 一夫
 長沢 庄治・山中 廣次・河村 節子・浜上 昌之
 江口 庸平(順不同)

三三三会に出席して

農化33年卒 櫻井勝夫

昭和五十八年暮に届いた六篠会報に、創立三十五周年記念行事を篠山で行うとありました。「篠山で」の記事には是非出席しなければと思ったものでした。篠山へは大阪に転動して以来数度訪れており、それも農場跡に建てられた保健所へ行っているのですから、「なつかしさ」もそれほどではない筈ですが、何故か行ってみたいと思つたのです。そう言えば最近、高校のクラス会、小学校の同期会と続けて案内をもらいました。そういう年令になつたのでしようか。

記念行事の案内状には、「OB会をどうぞ、会場の紹介をします」とありました。思えば我々三十三卒は、卒業以来一度も集まつていません。せつかつのチャンスです。「集まろう」と北浦氏にもちかけたところ、早速に大学にいる水上氏に連絡をとり、事務局を水上氏が引きうけてくれ、会場も丹波荘と決まり、集まるだけになりました。

さて、五月十九日大阪駅で久米氏にばつたり。おかげで久しぶりの福知山線の二時間の短かかったこと。彼とは卒業以来会つていませんのに不思議な話です。この時計は簡単に逆回りしたとみえます。参加者は農学科六名、農芸化学科

同期会での思い出

農学37年卒 小山美幸

楽しみにしていた日がやってきました。どんな顔ぶれが集まるのだろうか、また、青春の地「篠山」はどのような様子になっているのだろうか、あれこれ思いを巡らす。胸おどらせて、この日が来るのを待ち望んでいたのである。

思い返せば昭和四十二年の秋、兵庫農大が国立に移管されることになり、学舎が移転するまでに篠山の町で同窓会をしようというので、それに合わせて女房を篠山に連れていったことがある。その当時は結婚一年目で、新婚気分もまだ抜けていない時もあり、また、篠山で過ごした学生時代の思い出をよく話し、聞かせていたこともあって、ぜひ連れて行ってほしいとせがまれて、道連れにしたものであった。

その後、十七年の歳月が流れ、兵庫農大創立三十五周年記念の行事に併せて、兵庫農大十回生（昭和三十七年卒）の同期会が行われることになり、新婚気分はとうに抜けてしまつて、かつて訪れた時の篠山の印象が余程良かったとみえて、このたびも篠山行をせがまれてしまい、幹事の了解を得て同期会に同伴で出席することにした。

同期会は、下立町の池富旅館で行われ、集まったのは、農学科では古家君、新保君、武君、竹内君、戸沢君、保田君、山田孝君、山本君、それに私の計九名、農芸化学科では稲田君、井上君、岩井君、岸原君、辻君、中田君、長岡君、藤田君、前川君、松下君、山本君の計十一名、畜産学科では坂野君、中村君、藤井君、別所君、松浦君の計五名、



▲ 37年卒同期会

れていたと思ひます。そう變つたわけではないのですが、何処となく開けた感じで、裏切られたようなもの、ものた私だけだつたでしょうか。又元の大学構内に入ったところ、グランド跡は廃土が積まれ、みごとだった桜は老朽ちて、悲しい風景でした。いつそのことも何が残っていない方がよかつたのかも知れません。でも仕方のないことです。懐かしさにちよつぱり淋しさの二日間でした。では五年後の再会を楽しみに、失礼します。



▲ 篠山町歴史美術館 (旧裁判所)

け合い、タイムスリップして昔に逆もどしし、コンパをやっているような楽しい雰囲気になり上つていった。

余談になるが、同伴の女房と辻君とが、中学時代の同窓生であることが判り、二人共意気投合して、中学時代にまでさかのぼって、思い出を語り合つていた。「世間は、広いようで狭いものだ」とよく言われるが、成程と感じた次第であった。

二次会は、「おっさん」の店やろうというところになり、一同揃つて出かけたが、あいに、「おっさん」は身体具合が悪く、床に伏してあり、学生時代「おっさん」に面倒をかけた者「二三人が、代表でお見舞することにして、他の者は



▲ 三三三会 (写真提供・小林 義夫氏)

私達昭和四十二年卒業生は、神戸大学農学部発祥の地であり、現在、やすらぎの城下町」というキャッチフレーズで観光客に親しまれている篠山の地に三三三会年半勉強し、最終学年の年には、引越しの荷造りを手伝うなど、現在の神戸大学農学部のある六甲台へ移転するという節目を体験した時期の卒業生です。

又、三ヶ年間は田舎の町で、残りの半年間は都会でという風に、大学生活四年間のうちで、二種類の学生生活を味わうことができたというラッキーな時期の卒業生とも言えます。

篠山における学生生活といえば、旧篠山練兵場兵舎を改造した木造二階建校舎が勉強の場であるためか、校内の緑豊かな大地の上で、村夫子然とした先生方やパンカラ風の先輩達と共に、スポーツに勉強にと一体感が醸成されていたように思われます。

又、篠山の地は山奥であるため、殆どの学生が下宿生活をしており、先生方も生活の場を篠山に置いておられる方が多かつたため、講義終了後の私生活の場にも、小さな町中の小さな食堂や酒場にて、先生や学生達が一緒に食事したり、酒を酌交す光景が日常茶飯事のように見られ、学内外を通じて、先生方と学生が生活を共にしていたような感が、今でも鮮然に残っています。

六甲台における学生生活は僅か半年間であり、卒業論文の追い込み時期にも当たつたため、学生生活を充分に味わうに至らず、篠山時代の比較は出来ませんが、学舎が高層建築物というところもあって、交流がその階層ごとに分断されていたように思われます。又、神戸は大都市であるため、キャンパスを離れば、先生方も学生も、大都会に吸収されてしまい、交流は限られた親しい者同士だけに留まつてしまつたように記憶しています。

卒業して十六年たった今になって顧みますれば、やはり篠山の地に於ける学生時代の方が懐しく思われてなりません。

さて前置きが長くなりませんが、その懐かしき篠山の地に、神戸大学農学部創立三十五周年記念祝賀会が開催されることを聞き及びましたので、この機会をとらえ、あの懐かしき地に同期会をぜひ開こうと、十六年目にして、初めての五学科そろつての同期会を開くことになりました。

昭和五十九年五月十九日午後六時より、高砂旅館にて、約五十名に及ぶ同期生が集まり、和気藹々の雰囲気にもまれて、宴の会の火ぶたが切られました。

まず、醸酵生産学教室の集りである与作会と掛け持ちにもか、わざわざご出席を心よく引受けて下さった西羅先生のお話が始まり、次いで、一同に会することが出来たことを祝して乾杯。

十六年振りに顔を合わす者も多く、顔と名前が一致しないため、自己紹介することになりました。同期生個々の現状をひとわり聞くと、企業の中堅幹部として頑張っている者や独立して経営者になつている者など色々ありました。西羅先生の「社会に出て、皆がそれぞれ頑張つていてくれる顔を見るのが出来、非常にうれしく思います」との言葉がありました。十六年前とは違つて、夫々にそれなりの風格がにじみ出ていた。残念なことには、全く連絡なしに欠席された方がいたため、宴会費用の値引き交渉のため、幹事一同大あわてさせられました。しかし、同期生の宇杉君と高砂旅館のおかみさんが、鳳鳴高校時代の同級生だったことも幸いし、大変な便宜をはからつて下さりました。又、西羅先生及び同期生の塩川芳郎君(欠席)より、宴会費用の足しにと祝金を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

酒を酌交しながらの談論風発。十六年前にタイムスリップしたかのように、学生気分に戻り、旧交を温め合ううちに時間が来て、九時過ぎに散会しました。殆どの者が宿泊しましたが、どうしても帰らなければならぬ者もいて、元気があつて、送り出した後、懐しの酒場「おっさん」にて二次会を開く者、麻雀に、話に興ずる者、皆思い思いに分散して一夜を過ごしました。翌朝、記念写真を撮つた後、別れを惜しみながら帰途につきました。

発祥の地での同期会

農化43年卒 上垣 豊

私達昭和四十二年卒業生は、神戸大学農学部発祥の地であり、現在、やすらぎの城下町」というキャッチフレーズで観光客に親しまれている篠山の地に三三三会年半勉強し、最終学年の年には、引越しの荷造りを手伝うなど、現在の神戸大学農学部のある六甲台へ移転するという節目を体験した時期の卒業生です。

又、三ヶ年間は田舎の町で、残りの半年間は都会でという風に、大学生活四年間のうちで、二種類の学生生活を味わうことができたというラッキーな時期の卒業生とも言えます。

篠山における学生生活といえば、旧篠山練兵場兵舎を改造した木造二階建校舎が勉強の場であるためか、校内の緑豊かな大地の上で、村夫子然とした先生方やパンカラ風の先輩達と共に、スポーツに勉強にと一体感が醸成されていたように思われます。

又、篠山の地は山奥であるため、殆どの学生が下宿生活をしており、先生方も生活の場を篠山に置いておられる方が多かつたため、講義終了後の私生活の場にも、小さな町中の小さな食堂や酒場にて、先生や学生達が一緒に食事したり、酒を酌交す光景が日常茶飯事のように見られ、学内外を通じて、先生方と学生が生活を共にしていたような感が、今でも鮮然に残っています。

六甲台における学生生活は僅か半年間であり、卒業論文の追い込み時期にも当たつたため、学生生活を充分に味わうに至らず、篠山時代の比較は出来ませんが、学舎が高層建築物というところもあって、交流がその階層ごとに分断されていたように思われます。又、神戸は大都市であるため、キャンパスを離れば、先生方も学生も、大都会に吸収されてしまい、交流は限られた親しい者同士だけに留まつてしまつたように記憶しています。

卒業して十六年たった今になって顧みますれば、やはり篠山の地に於ける学生時代の方が懐しく思われてなりません。

さて前置きが長くなりませんが、その懐かしき篠山の地に、神戸大学農学部創立三十五周年記念祝賀会が開催されることを聞き及びましたので、この機会をとらえ、あの懐かしき地に同期会をぜひ開こうと、十六年目にして、初めての五学科そろつての同期会を開くことになりました。

昭和五十九年五月十九日午後六時より、高砂旅館にて、約五十名に及ぶ同期生が集まり、和気藹々の雰囲気にもまれて、宴の会の火ぶたが切られました。

まず、醸酵生産学教室の集りである与作会と掛け持ちにもか、わざわざご出席を心よく引受けて下さった西羅先生のお話が始まり、次いで、一同に会することが出来たことを祝して乾杯。

十六年振りに顔を合わす者も多く、顔と名前が一致しないため、自己紹介することになりました。同期生個々の現状をひとわり聞くと、企業の中堅幹部として頑張っている者や独立して経営者になつている者など色々ありました。西羅先生の「社会に出て、皆がそれぞれ頑張つていてくれる顔を見るのが出来、非常にうれしく思います」との言葉がありました。十六年前とは違つて、夫々にそれなりの風格がにじみ出ていた。残念なことには、全く連絡なしに欠席された方がいたため、宴会費用の値引き交渉のため、幹事一同大あわてさせられました。しかし、同期生の宇杉君と高砂旅館のおかみさんが、鳳鳴高校時代の同級生だったことも幸いし、大変な便宜をはからつて下さりました。又、西羅先生及び同期生の塩川芳郎君(欠席)より、宴会費用の足しにと祝金を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。



▲ 43年卒同期会 (写真提供・岡田 清隆氏)



▲ 祝賀会風景

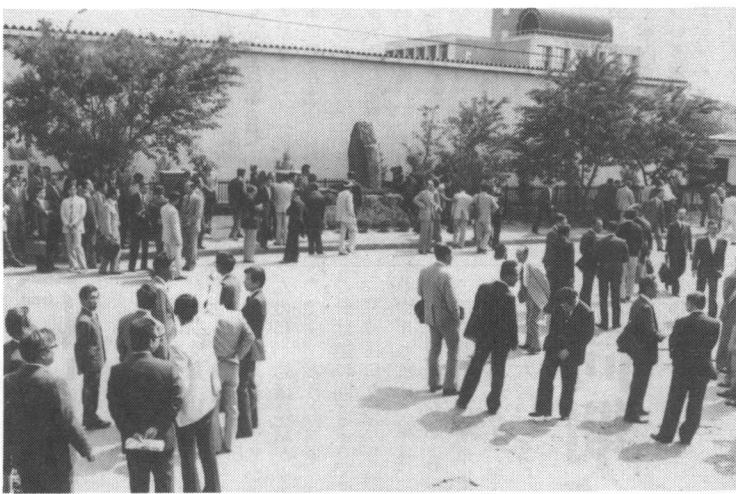
庶務報告

▼「発祥の地記念碑」除幕式と記念祝賀会
昭和59年5月19日多数の参加者を得て、兵庫県篠山総合庁舎（旧兵庫農科大学農場跡地）において挙行された。

役員会報告

昭和59年4月27日
定期役員会 於 金龍閣
○昭和58年度経過報告ならびに会計報告
○昭和59年度役員選出
○昭和59年度事業計画
昭和60年3月19日
常任幹事会 於 農学部
○「六篠会報」第6号編集方針について
○「神戸大学農学部紹介」冊子の取扱いについて
○「第36回新制大学農学部協議会」於 神戸大学について
○神大クラブ運営について

○昭和60年度役員選出について
○昭和60年度事業計画について
昭和60年度
定期役員会報告



▲ 発祥の地記念碑の除幕式後の風景

会則第九条に基づき、昭和六十年度の定期役員会は四月二十日(土)午後三時より金龍閣において、役員過半数の出席を得て開催されました。

まず、昭和五十九年度の経過報告ならびに会計決算報告・会計監査報告が各担当役員よりなされ、異議なく承認されました。

つきに、昭和六十年度役員選出について会長より提案され、別記の通り決定されました。引続き、昭和六十年度事業計画案・予算案などの説明が各担当役員からなされ、審議された結果、原案通り承認されました。

▼六篠会組織と内規の検討について
東、久下、田中各副会長及び久保監事、能宗、北浦両幹事を中心に各種内規の検討が進められ、三回の会合のまとめとして、現在次の三内規が試案の形でまとめられました。

一、教育・研究助成に関する内規
二、慶弔に関する内規



▲ 35周年記念会場案内

三、代議員に関する内規

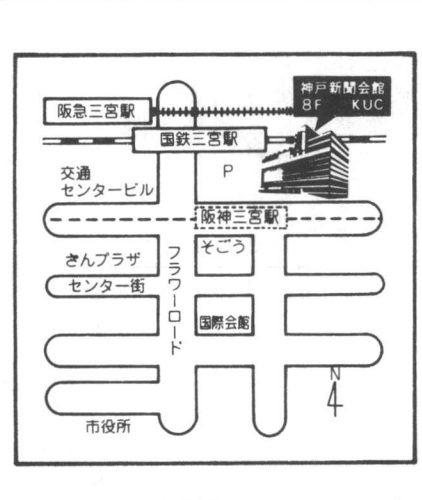
六篠会では、海外からの学者・研究者の来学に際し、農学部各学科主催とする学術講演会に一件一名、三万円程度の助成を行っております。昭和57・58年の両年度は夫々数件の学術講演会が開かれ好評でしたが、昨年度は低調でしたので、母校の教官の先生方の活用を最非お願いいたします。

▼神戸大学KUCブライダル・センター開設ご案内
このたび、神戸大学学友会が、KUC会員の皆様方のご結婚のご相談に際して、営利を目的とせず、良心的に、親切をモットーに、新しくKUCブライダル・センターが開設されました。このセンターは、社会的地位のあるKUC会員のご子弟、及び、神戸大学関係者の絶大なご協力・ご支援によってのみその運営が保障されるものと考へております。

国際学会で日本に來られた場合や個人的に來日された場合でも、この助成金を利用し、神戸まで足をのばして、講演会を開いていただければ、学生の教育上も刺激になります。神戸でのホテル代位になりますので、神戸をご案内されるものにも有効かと思っておりますので、一層のご活用をお願いいたします。

▼KUC(神大クラブ)のご案内
〒651 神戸市中央区雲井通七の二の二 神戸新聞会館8階(国鉄三宮駅前) 〇七八-二二二-一四一五

▼申し込み資格
一、KUC会員であること
二、KUC会員の責任ある紹介による男女であること



▲ KUC案内図

▼「発祥の地記念碑」の建立、記念祝賀会をはじめとする創立三十五周年記念事業は成功裡に終了いたしました。今回の会報は記念碑除幕式、祝賀会、その後催された各グループの宴会についての記事を中心に編集いたしました。ここに御寄稿いただきました方々に厚く御礼申し上げます。祝賀会は創立三十五周年を祝うのみでなく、同窓諸氏のコミュニケーションの

場としても役立つものと思っております。会報を充実させるため、御意見や近況など、さらに同期会や学生時代のクラブ、その他それぞれの地域や職場における会などについての記事の御投稿をお待ちしております。

最後に、会員皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

* 当初五月発行の予定で準備を進めておりましたが、事情により遅れましたことをお詫び申し上げます。

編集後記

「発祥の地記念碑」の建立、記念祝賀会をはじめとする創立三十五周年記念事業は成功裡に終了いたしました。今回の会報は記念碑除幕式、祝賀会、その後催された各グループの宴会についての記事を中心に編集いたしました。ここに御寄稿いただきました方々に厚く御礼申し上げます。祝賀会は創立三十五周年を祝うのみでなく、同窓諸氏のコミュニケーションの

場としても役立つものと思っております。会報を充実させるため、御意見や近況など、さらに同期会や学生時代のクラブ、その他それぞれの地域や職場における会などについての記事の御投稿をお待ちしております。

最後に、会員皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

* 当初五月発行の予定で準備を進めておりましたが、事情により遅れましたことをお詫び申し上げます。

▼相談日及び相談場所
一、相談日 毎週水曜日・日曜日(2日)(電話での予約による)
二、相談場所 センター事務所(神戸市東灘区住吉山手1-9-62 沢田方)
三、電話での問い合わせ 843-2515

▼申し込み手続き
一、当センター備え付けの下記書類(三種類)と写真に通信費を添えてご提出ください。
●申込書 一通
●身上書 三通
●添書 三通
二、写真(サービス版程度の最近のスナップ写真を10枚)
三、提出書類は成立するまでは一年毎に更新していただきます。

▲ 創立35周年記念祝賀会

会 計 報 告

昭和58年度一般会計決算報告書 収支対照表

前年度繰越金	1,149,294	本年度支出金	4,680,646
本年度入金	6,672,754	次年度へ繰越	3,141,402
合計	7,822,048	合計	7,822,048

収入の部

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	1,149,294	1,149,294
一般会	3,870,000	4,120,000
特別記念事業寄附金	1,000,000	2,506,500
預金利息	20,000	38,649
雑収入	10,000	7,605
合計	6,049,294	7,822,048

支出の部

項目	予算額	決算額
農学部活動援助費	200,000	200,000
一般事業費	1,500,000	745,000
特別記念事業費	2,000,000	2,168,801
一般事務費	900,000	454,125
会議費	150,000	135,710
旅費	60,000	46,110
慶弔費	40,000	5,900
神大友会経費	150,000	25,000
雑費	20,000	0
予備費	129,294	0
学術振興基金	900,000	900,000
合計	6,049,294	4,680,646

監査の結果誤りのないことを認める。
昭和59年4月18日
久保一兵 印
切貫武代司 印

昭和58年度六篠会学術振興基金決算報告書

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	9,639,584	9,639,584
一般会計より繰入れ	900,000	900,000
寄附金	1,000	0
預金利息	250,000	483,546
合計	10,790,584	11,023,130

昭和59年度学術振興基金六篠会学術振興基金決算報告書

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	11,023,130	11,023,130
一般会計より繰入れ	3,000,000	3,000,000
寄附金	1,000	0
預金利息	550,000	633,071
合計	14,574,130	14,656,201

昭和59年度一般会計決算報告書 収支対照表

前年度繰越金	3,141,402	本年度支出金	5,729,397
本年度入金	4,316,220	次年度へ繰越	1,728,225
合計	7,457,622	合計	7,457,622

収入の部

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	3,141,402	3,141,402
入会金	3,860,000	3,930,000
特別記念事業寄附金	50,000	359,000
預金利息	30,000	20,045
雑収入	10,000	7,175
合計	7,091,402	7,457,622

支出の部

項目	予算額	決算額
農学部活動援助費	200,000	200,000
一般事業費	1,070,000	0
特別記念事業費	1,430,000	1,506,209
一般事務費	800,000	593,165
会議費	150,000	151,498
旅費	60,000	45,750
慶弔費	120,000	159,230
神大友会経費	90,000	73,545
雑費	20,000	0
予備費	151,402	0
学術振興基金	3,000,000	3,000,000
合計	7,091,402	5,729,397

35周年特別記念事業会計決算報告書 収入の部

項目	予算額	決算額
会費	1,250,000	1,120,000
式典運営費	700,000	1,217,009
合計	1,950,000	2,337,009

支出の部

項目	予算額	決算額
式場費	300,000	304,480
飲食費	600,000	854,400
記念品	830,000	882,500
送迎費	100,000	86,300
OB会等援助費	40,000	43,422
鏡割費	80,000	98,670
その他	0	67,237
合計	1,950,000	2,337,009

監査の結果誤りのないことを認める。
昭和60年4月15日
久保一兵 印
切貫武代司 印

昭和60年度六篠会役員

- | | |
|---------|-------------|
| 会 長 | 西川 欣一 (A1) |
| 副 会 長 | 東 順三 (C1) |
| 〃 | 久下 平 (C1) |
| 〃 | 田中 平義 (C1) |
| 常 任 幹 事 | 新 家 龍 (C5) |
| 幹 事 長 | 竹内 正 (A10) |
| 庶 務 長 | 河南 保幸 (Z11) |
| 会 計 長 | 岸原 士郎 (C10) |
| 会 報 長 | 王子 善清 (C12) |
| 名 簿 長 | 上垣 豊 (C16) |
| 監 事 | 切貫武代司 (K1) |
| 〃 | 久保 一平 (C2) |
| 幹 事 | 山口 禎 (A1) |
| 〃 | 石田 陽博 (A2) |
| 〃 | 能宗 康夫 (C2) |
| 〃 | 前川 進 (A3) |
| 〃 | 藤井 聰 (C5) |
| 〃 | 北浦 義久 (A6) |
| 〃 | 水上 雄三 (Z6) |
| 〃 | 植田 武彦 (A7) |
| 〃 | 酒井 進 (C7) |
| 〃 | 杉原 一三 (Z9) |
| 〃 | 中田 昌伸 (C10) |
| 〃 | 岡田 秀晃 (Z11) |
| 〃 | 山本 博昭 (A12) |
| 〃 | 辻 莊一 (Z12) |
| 〃 | 内藤 親彦 (A13) |
| 〃 | 脇内 成昭 (C15) |
| 〃 | 西尾 司 (Z16) |
| 〃 | 中村 直彦 (Z神1) |
| 〃 | 寺井 弘文 (A神2) |
| 〃 | 山本 和人 (T神4) |
| 〃 | 三十尾修司 (A神6) |
| 事 務 局 | 江口 庸平 |

* 神戸大学KUCブライダル・センター委員 西川 欣一・新家 龍・酒井 欣一